

『太陽コーパス』にみる、動詞性名詞「報告」の使用実態

佐藤 佑 (東京外国語大学)

Verbal Noun “*Houkoku* (報告)” in Modern Japanese

—A Research Based on the Data of ‘Taiyo Corpus’—

SATO Yu (Tokyo University of Foreign Studies)

1. はじめに

現代日本語のサ変動詞（行動する、出入りする、プレーする……）は、その大多数が語幹の名詞用法（（太郎の）行動、（店への）出入り、（一流選手の）プレー……）を持ち、それは第一義的には「動詞の表す事態をすること」（行為）の意味を表す。

発表者は、佐藤（2011b）において、サ変動詞語幹および「（身体の）動き」「（靴下の）繕い」などの動詞連用形が事態を表す諸例（両者および一部の関連形式¹を「動詞性名詞」と総称する）の構文・意味的特徴を詳述した。その骨子は以下のようなものである。

動詞性名詞は、「太郎が近所の公園で遊ぶの（を見た）」「花子が来年の夏に結婚すること（を知った）」のような節単位の名詞化形式（名詞化節）に比べ、名詞句内部には限られた情報だけを表し、広範な文脈の流れを反映する「凝縮」的な表現である²。

名詞化節と異なり、動詞性名詞を核とする名詞句は、それ自体に多くの要素を明示することが難しい。たとえば、「??太郎の近所の公園での遊びを見た」「??花子の来年の夏の結婚を知った」というのは、いずれも著しく不自然である。これには様々な要因が関わっているが、一つには名詞句の性質上、複雑な連体修飾が難しくなること、また当該形式は文脈に強く依存し、それ自身において多くの情報を提示する必要もないということが指摘できる。

少なくとも文学作品などにみる限り、動詞性名詞が連体修飾を受ける場合、修飾要素は単一であることが圧倒的に多い（佐藤（2011b）の調査範囲中では、「いつもの平穏な生活」のように複数表れる例は約1割に過ぎない）。そして、「太郎の家出」「ビルの破壊」といった当該の動作・作用にとっての主体および直接対象を表す例をはじめ、事態の生起する時間（夜中の電話）、場所（故郷での暮らし）、原因（長旅の疲れ）、動作・作用の行われ方＝様態（静かな会話）など、様々な副次的要素が表れうる。

こうした動詞性名詞句の中でも、発話行為や授受行為を中心とする、X【人1（動作の主体）】・Y【人2（動作の向かう相手）】・Z【やりとりされるもの・ことがら（対象・内容）】の三者間の関係については、連体修飾の構造についてきわめて重要な特徴が認められる。その典型的な例の一つに、「報告」が挙げられる。

サ変動詞「報告する」は、伝達の主体 X・相手 Y・内容 Z の三者の関係を、待遇性・話題の偏りといった問題にはあまり左右されず、比較的シンプルかつ客観的に表すものと考えられる。そして、その語幹の名詞用法である「報告」は以下に挙げるように、動詞性名詞としても特筆すべき特徴を備えていると考えられる。

¹ 一例として、「引っ越し」（「引っ越す」とも「引っ越しする」とも対応する）など。

² この「凝縮」という概念は、石井（2007）において指摘された臨時一語の性質に関する考え方を、動詞性名詞の使用全般に拡張したものである。

①連体修飾構造の明確性

「XがYにZと報告する」との対応でいうと、「Xの／からの」「Yへの」「Zという／との」といった連体修飾で、参与者間の関係を適切に表し分けられる。また、特に（発話を表す動詞性名詞の特徴として）Zについては「Zの／という／との……」というように、実現のパターンが多様であり、それらが各々どう使い分けられるかも問題になる。

②複合語・臨時一語の生産性

（下の③ともかかわって）「調査報告」「山田氏報告」などの複合語・臨時一語（臨時に形成される複合語）のバリエーションがきわめて豊富である。

③意味の多側面性³

発話行為そのものだけでなく、発話の内容・記録などにも言及しうる（cf. 彼の報告を疑う/雑誌で読む）。また、その境界は明確でないことが少なくない（cf. 敵将戦死の報告が部隊を奮い立たせた）。

本発表では、現代日本語における動詞性名詞「報告」の意味・用法の実態を明らかにし、またそのメカニズムを詳細に検討するための足がかりとして、成立期現代語における名詞「報告」の統語的・意味的特徴を検討する。具体的には、明治末～戦前までの日本語の使用実態をもっとも適切かつ容易に調査することのできる『太陽コーパス』を用い、主として上記①～③の問題を検討する。

2. データの収集

検索ツール「ひまわり」(ver. 1.3 β05) を利用し、検索文字列を「報告」として全範囲の検索を行った⁴。なお、ルビ検索による異表記の検討も行ったが⁵、現代語と同じ「報告」以外の表記で、同様の意味の語が表れた例はないものと判断された。

検索結果を Excel にペーストした後、手作業で名詞「報告」と動詞「報告する（致す）」とを別のシートに振り分け、さらに前者は年次ごとにシートを分けた。また、行為との移行関係を中心に考察するため、「報告書」「報告者」といった、「報告」を前項とし、かつ直接行為に言及する余地のない合成語（103例）については主たる考察対象からは除外するが、必要に応じて参照できるよう、やはり別のシートを作って保存した。

3. 『太陽コーパス』における「報告」の分析

3. 1. 名詞「報告」のデータ概要

名詞「報告」およびそれを中心とする名詞句、あるいはそれを後項とする合成語の用例は、計 518 例が得られた（1895 年：132 例、1901 年：112 例、1909 年：104 例、1917 年：62 例、1925 年：108 例）。なお、動詞「報告する」の用例は計 251 例（60 例・55 例・50 例・39 例・47 例）と、全体としては名詞「報告」の半数未満にとどまった。

名詞「報告」が直接連体修飾を受けたもの（「日本銀行の報告」「麻に關する報告」など）は計 242 例、「報告」を後項とする複合語・派生語・臨時一語は計 136 例（「近年の決算報告」など、さらに別途連体修飾を受ける例も含む）、いずれも認められず「報告」が単体で用いられた例は計 140 例であった⁶。

³ 本研究において、こうした問題について考える上で、西尾（1961）における連用形名詞の分類（特に「動作・作用そのもの」>「イ 動作・作用そのもの（何々スルコト：泳ぎ、調べ、貸出しなど）」「ロ 動作・作用の内容（何々スルトコロノコトガラ：考え、教え、望みなど）」「ハ 動作・作用のありさま・方法・程度・具合・感じなど（金遣い（が荒い）、滑り（がいい）など）」）がきわめて重要な視座を与えている。

⁴ なお、修飾要素や文中での位置などを見やすくするため、前文脈・後文脈は各 100 文字とし、さらに広範な文脈を見る必要がある場合は別途本文を参照するなどした。

⁵ ルビ検索による異表記の検討方法について、詳しくは佐藤（2011a）などを参照されたい。

⁶ カウントは可能な限り綿密に行うことを期したが、「毎月報告を求める」を単体扱いとした判断など、微

なお、コーパスの収録対象となっている雑誌『太陽』の特性に由来するものでもあるが、名詞「報告」が用いられる文章は、おおむね時代が古いほど文語体が多く、新しくなるにつれ口語体が主流となっている。一記事中に文語・口語が混在する等の問題（主に小説）もあり、必ずしもコーパスの「文体」タグが当該の用例の文体を正確に反映しているとは言えない場合もあるが、「報告」の用例に関してはおおむね実態を反映しているものと判断された。文体ごとの分布は、下の表 1 に示すとおりである。

表 1 文語・口語の分布（年次別）

	1895	1901	1909	1917	1925
文語	130 (98.5%)	102 (91%)	58 (55.7%)	26 (41.9%)	3 (2.8%)
口語	2 (1.5%)	10 (9%)	46 (44.3%)	36 (58.1%)	105 (97.2%)
計	132	112	104	62	108

以下、名詞「報告」が受ける連体修飾の内実（3. 2.）、「報告」の語構成力（3. 3.）、「報告する」行為と名詞「報告」の関係の多様性（3. 4.）の順に概観する。

3. 2. 「報告」の連体修飾

まず、名詞「報告」がどのような連体修飾を受けているかの実情を概観する。なお、「(近年の) **決算報告**」「(各般の) **事務報告**」など複合語・派生語・臨時一語がさらに連体修飾を受ける諸例については、主に語構成のあり方を概観する関係上、次項で簡単に触れるにとどめる。

A. 伝達行為の主体

「報告する」主体（「X が Y に Z と報告する」の X）が表れる例（84 例）は、(1)(2)をはじめ、現代語と同様に「X の」「X からの」の形で実現するものが多い。

- (1) 然れども此の流通資本の増加を以て、直ちに通貨の増加と誤認すべからず、日本銀行の報告によれば、近來我國の通貨は、増加せずして寧ろ減少の傾向あり、(1895 年 11 号／「商業」)⁷
- (2) 紐育の火星委員會の會長は、去年の接近期間中、聴取記録を作り得る素人研究者達からの報告を蒐集した。(1925 年 4 号／「世界のラジオ」)

ただし、文語体の文章には、(3)のような「X よりの報告」の例も見られる。こうした後置詞の使用は、現代語の感覚では一般的とはいえない。

- (3) 在安平有地艦隊司令長官よりの報告によれば二十日午後二時安平沖警戒中英獨兩國の軍艦及領事館員より劉永福は十九日の夜若干の部下を以て三艘の支那船に乗り遁走し……(1895 年 11 号／「海内彙報」)

B. 伝達行為の相手

「報告する」相手（「X が Y に Z と報告する」の Y）は、現代語と同じく「Y への」の例が見られるが、以下の(4)を含め計 3 例ときわめて少ない。

妙な部分も多少残っている。さらに客観的な条件付けの基準設定は今後の課題としたい。

⁷ 用例は、後ろに括弧書きで年次と号・記事タイトル・著者名を示す。ただし、著者が不明の記事については記事タイトルまでの表示とする。

- (4) マルシヤン「陛下。長い間皮を集めて漸やく作つたのでございます」／奈（マルシヤンの手を握り）「忝い。私はお前に取らすものがない、此の握手で満足してくれ、おい監督殿政府への報告の種が出来たぞ」（1917年12号／「脚本 落日（帝国劇場台本）」／佐藤紅緑）

現代語ではこの他、「Yに対する」「Yに向けた」などの形が考えられるが、該当する例は見られなかった。以下の(5)は唯一得られた「～に対する報告」の用例であるが、現代語の感覚としては「～に関する」と同じような意味（→3. 2. C）になると思われる。

- (5) 試みに現時の我領事の通商貿易に対する報告の如き之を歐米各國領事の報告に比較し見よ如何に彼れの報告の其の商工業に密接して實際的に、我れの報告の商工業に迂遠にして非實際的なるかよ。（1909年14号／「行政税制整理問題 外務行政刷新上の四要望」／望月小太郎（談））

C. 伝達の内容

「報告する」内容（「XがYにZと報告する」のZ）を表す連体修飾要素としては、「Zとの」「Zといふ」「Zの」といった形の引用節が見られる（(6)-(8)他、(9)(10)のように話題の中心となる事物が後置詞を伴って表れる例も確認された（計67例）。いずれも現代語と共通して見られるタイプの表現である。

- (6) 一月計り経て、宮御方辛じて會津へ入せらるゝのよし、覺王院も御傍にあるとの報告に、少しく愁眉を慰めたり、（1895年6号／「彰義隊 下」／曳尾叟）
- (7) 翌八日御幣使街道に斥候して見ると、太田の宿に敵が居ると云ふ報告ジャから、夜中進んで見ると、未だ太田迄來ない、（1901年10号／「追懷談」／川村純義（談））
- (8) 工藤行幹氏より第二號議案黨則改正の説明あり、神鞭知常氏財政調査延期の報告あり、（1901年1号／「海内彙報」）
- (9) 蠶業の改進夫れ何れの時をか期せん。麻に関する報告は同く、品質良好なるもの多しと雖、間々栽培製造の方法良しからざる爲め、色澤不良、纖維の長短強弱其完きを得ざるものあるは遺憾なりと。（1901年13号／「農業世界」／上野英三郎）
- (10) 此等穿鑿のなされたる精神の、自然の結果として、此等の宗教に就ての報告は、積極的に其何を有するやに非ずして、寧ろ消極的なる其なき所の何たるをいふにすぎざりしなり。（1895年11号／「シヨツペンハウァー氏の支那宗教論」／S. T. 生）

一方、(11)のような外の関係の修飾で、伝達内容が表される（現代語では考えにくい）表現の例も若干数見られた（ただし、「報告」を修飾する連体修飾節は、「各省から出る報告」「其向へ爲したる報告」のような内の関係のものが大半を占める）。

- (11)その後數年経つて、獨逸のフライブルグ大學のデウラ・カンプ氏並びにその門弟キユウブルレ氏が動物試験を試みて、結核の治癒状態、人體に效能ある報告に接した。時に千九百十三年であつた。（1925年1号／「最近X光線療法の進歩」／宮原立太郎）

D. その他

必須項のみならず、様々な副次的要素を伴いうることも、動詞性名詞の特徴である。『太陽コーパス』上の「報告」においても、上で扱った主体（X）・相手（Y）・内容（Z）の3種の他にも、多様な修飾要素を伴って表れている。

(12)(13)のように報告の内容などを評価・規定する例⁸が25例程度見られた他、(14)(15)のように「報告」が行われた状況（時間や場所など）を表す例などは、他に17例（時間的

⁸ その他、「數多の」など報告行為の多寡を表す例も若干数見られた。

なもの9例・場所的なもの8例)と、全体的にあまり多いとは言えない⁹。

- (12) 倫敦商業會議所の劃策經營する所は實に他に比類を見ざる所にして、或は諸種の統計及び報告を蒐集頒布し、或は公會を催し或は學者及び専門家に托して講演會を設け、孜々外國貿易擴張上須要なる智識を研磨し、同時に商業上の爭論を仲裁し又政府の諮問に應じ或は政府に建議し駐外領事より緊要なる報告を徴し汎く之を頒布する等商業の發達上頗る有益の擧に出づること多し。(1901年3号/「商業世界」/佐野善作; 祖山鍾三)
- (13) 聯合會の人々は勿論議定書に賛成であるから、内閣の政策に不服を有つてみた。そこで報告者は、『フランスは平和に對してデクレアし、イギリスは戰に向つてデクレアした。』と面白い報告をした。(1925年12号/「欧米雜感 國際心理の矛盾と煩悶」/塩沢昌貞)
- (14) 前刻の報告中に成るべくは還曆の機會を避けたかりしことを縷々述べましたが、先生の教職に就かれましてより滿五十年になります其機會を採りたる方が宜しかりしならんことを最近に至り遅蒔きながら氣附きたる次第でございます。(1917年12号/「菊池大麗先生」/藤沢利喜太郎)
- (15) 此合同救助は克く其目的を達し、千八百九十三年三月十六日英蘭銀行の廣間に於ける報告に依れば、ベーリングの負債は一時三千三十一萬三千磅に達せしも今や僅に四百五十五萬八千八百十三磅あるのみにて其所有せし手形は毫も損失を生ぜず盡く取立濟と爲りたりとあり。(1901年8号/「商業世界」/祖山鍾三; 佐野善作)

なお、以下の(16)のように複数の項目が同時に表れる(この場合、内容=Zとそれに関する評価を表す形容詞の2項が表れている)例も見られるが、計25例と限られる。(17)に見られるように、現代語では複数の連体修飾要素によって(たとえば、「七年前の露國醫師大會(で)の報告」のように)実現しそうな例であっても、連用修飾の形で実現する例が多く目に止まった。

- (16) 而して收支の明細なる報告は市民の前に提供せられざるべからず。(1909年2号/「電車問題の根本的解決」/安倍磯雄)
- (17) 今より七年前露國醫師大會の報告によれば明治三十八年より同四十二年に至る五年間に於て四萬五千以上の自殺者を生じ、明治四十一年同二年の統計によれば自殺者千人中年齡八歳以上四十歳の者四十五人、……(1917年5号/「欧州大戦と露國の革命」/浮田和民)

3. 3. 「報告」の複合・派生・臨時一語形成

「報告」が何らかの名詞成分を前項とし、あるいは接頭辞を伴い、複合語・派生語・臨時一語を形成する例は136例に上った。そのうち、「報告する」行為の主体は、複合語・臨時一語として実現した例は以下の(18)の3例を含め計25例と比較的少ない。これは連体修飾の形で表れる例の約1/3が行為主体である(3. 2. A)のとは大きく事情が異なる。

- (18) 經常部臨時部共に委員長報告通りに決定し、次で乙號豫算に入り島田三郎氏より繼續費打切りの動議を提出せしも少数にて成立せず、全部委員長報告通り決定し、丙號豫算各特別會計に就ても田川氏より臺灣航路補助費削除の動議ありしも、總て委員長報告通りに決定せしも、唯だ高柳覺太郎氏は濱松鐵工所問題につき委員長の報告に満足せず、(1909年4号/「彙報」)

主体の例は「彙報」における「委員長報告」が半数近く(11例)に上り、その他「領事報告」「審査總長報告」など、行為主体を表す前項は役職名が大半を占めた。特に固有名+「報告」の複合語・臨時一語は特に少なく、以下の(19)(20)など4例が見られたのみであった。

⁹ 他にも先に触れた「各省から出る報告」などの例が見られたが、紙幅の関係上詳細は割愛する。

こうした用法の自由度は、現代語に比べて高くないように見受けられる。

- (19) ……殊に今日にては容易に獲得し難き東洋諸學會の數十年間の報告雜誌全部を網羅し、且稀觀書としては十六世紀版のマルコポロの紀行やモルガの費島史の原本初版の如き今日の時價一萬圓以上に登るもの數冊、或は最も珍奇なる**エズイット報告**數十冊を算する如き、此の如き大蒐集は到底今後不可能であらう。(1917年10号／「案頭三尺」／内田魯庵)
- (20) ◎**震災豫防調査會報告**第四號及第五號 同報告第四號は去る七月三十日發行せられたり、其目次は(一)委員臨時委員及囑託員(二)委員會……(1895年10号／「科学」)

一方で、「決算報告」「現状報告」などといった、前項が「報告」の内容(cf. 3. 2. C)を表す例は、計85例ときわめて多く見られた。また、(22)(23)のように複合語がさらに連体修飾も受けることで意味の具体化がより詳細になる例(計53例)は、大半がこうしたタイプに集中する。

- (21) ◎駐支米國公使 ラインシユ氏は卅一日黎總統を訪問し**歐洲平和會議提案報告**及米支經濟連絡の件に關し長時間會談すと。(1917年3号／「日誌」)
- (22) 「ヘトール」の結核病竈に對する作用は如此、而して、**ランデレル氏の治驗報告**は如何と問ふに、千八百九十九年、獨逸伯林に於て、萬國結核撲滅會議を開けり、(1901年10号／「肺結核の新療法(ランデレル氏「ヘトール」療法)」／XYZ生)
- (23) そして今手元にある千通未滿の内、階級や境遇教養年齢等の點で割に雜駁なのを調査の都合上あと廻しにし、不取敢群として相當に數も纏まつた(一)東京帝大生百四十名(二)早稲田大學生百八十名(三)京都同志社大學豫科生二百七十七名、**合計五百七十七名に就ての統計報告**の極大要は次の通り。(1925年1号／「愛慾世界の鳥瞰圖 京都同志社大学、東京帝大、早稲田大学学生の性生活の統計的調査」／山本宣治)

その他、場所((24)など5例)、時間((25)など2例)、「報告」の内容などを評価する要素((27)など8例)など3. 2. D で見た諸例に類する複合語・臨時一語が見られた他、(26)の1例のみではあるが道具・手段が前項となる例も得られた。

なお、(25)などは現代語の感覚としては「前回」が「書いた」を修飾していると考えるのが自然であろうが、後述する派生語との関連上、一応複合であると考えておくことにする。

- (24) ◎馮段協議 段總理は馮總統を訪ひ**李開三の陸榮廷會見報告**を俟ちて約法國會臨時參議院に關する命令を同時に發する件に付協議すと。(1917年12号／「日誌」)
- (25) 報告は先づ友人デーコート醫師の話から始まる。醫師は**前回報告**の末尾にちよつと書いた約束に従つて、その翌日再びラトランド家に往診したが、脈を取つてみるまでもなく、患者メーブル嬢の病状は更に見直すところなく、益益惡化してゆく模様である。(1925年12号／「長篇探偵小説 ハートの九『第六回』」／延原謙(訳); ビ・エル・フアルジャン(作))
- (26) 然るにZR3號は、毫も斯の如き難飛行をしなかつた。これは絶えず大陸との無線通信が行はれ、また海上幾多の場所に配置せられた船から、時々天候の**無線報告**をうけて、天候の險惡なコースを避けるやうにして飛んだからである。1925年4号／「ラヂオ漫談」／近藤生)
- (27) 而して祕密會は午後四時十三分より初まり五時五十分を終り、再公開後**祕密會經過の形式的報告**ありて此日の議場を閉づ。(1917年3号／「第三十八議會解散顛末」)

「報告」に接頭辞が上接する(派生語を形成する)例に目を向けると、計9例と少ない中にも(あるいは、その少なさにこそ)現代語との相違が如実に表れている。

重要な一点として、「ご(御)報告」の少なさが指摘できる。名詞「報告」に接頭辞「御」が上接した例は(28)を含めわずか2例、動詞「御報告致す」も2例((29)含む)しかない。

- (28) 大山第二軍司令官の報告 第一師團より左の電報ありたり御報告に及ぶ (1895年4号／「軍事」)
- (29) 又前後の事情より推断しますれば皆に今日の記念會の間に合はざるのみならず何時出來するか殆んど無期限に延引するの懸念あると同時に男爵に於て記念品の贈呈を非常に迷惑に御思召さるゝの御意向が其後段々と益々明瞭になりましたから、委員の間の協議により斷然記念品を差上げることを見合はせることになりました。其事を御報告致しますると同時に御賛成者御一同の事後承諾を茲に御願ひ致す次第でございます。(1917年12号／「菊池大麗先生」／藤沢利喜太郎)

現代語において、目上の人物に対する「報告」行為は、名詞の場合であれ動詞の場合であれ(少なくとも当事者間における発話では)「御」を伴うことがほぼ必定であると考えられるが、『太陽コーパス』の実例においては、報告行為の主体と相手の上下関係などのあり方に関わらず、そうした例がほとんど見られない。「報告」1語の使用だけを材料に判断するのは早計に過ぎるが、こうした待遇表現に関する現代語との異同、歴史的変遷といった問題も、動詞性名詞の研究全般において重要な意味を持つであろう。

また、以下の(30)のような接頭辞は、現代語では動詞性名詞の使用全般において実現しがたいと考えられる。1895年・1901年に各1例が見られるのみと実例は限られるが、他の動詞性名詞についても調査・検討し、より体系的に見ていく価値はあろう。

- (30) 牛痘の製造に前報告の如く水牛を限り之を用う埃及牛は肩の隆起を具へざるも＝甲頗る強剛なり (1901年12号／埃及の家畜／ドクトル、ヤンソン農業世界)

その他、以下の(31)(32)のような用法は現代語でも問題なく実現可能であろう。

- (31) 同局長の言に曰く、今回の損害は其區域頗る廣大にして、甚しき慘状を極めたる事は、豫め諸報告に依り粗ぼ想像を畫きて之れに臨みたるが、(1895年9号／「海内彙報」)
- (32) 挿圖は重もに昨明治廿七年六月東京附近地震の際の被害物を撮影或は描寫せるものを石版にしたるものにして、凡そ百三十餘枚なり、一見直に瓦飛び壁裂くるの當時を追憶せしむ、同報告の如き號を追ふに従ひ益々記事の精采を放つが如きは、斯學の爲に頗る喜ぶべき事なり。(1895年10号／「科学」)

3. 4. 「報告」の多側面性

『太陽コーパス』における「報告」の、「報告する」事態との関係は、典型的には「行為(報告スルコト)」「内容(報告スルトコロノコトガラ)」「記録(報告サレタコトガラ)」の3パターンに分類される。

「行為」「内容」の諸例に関しては、現代語と大筋で変わらない用いられ方をしていると考えられる。一方、「記録」の意味については、現代語に比べて自由度が高いと見られる。

A. 「報告する」行為

「報告」の内容は問題とせず、事実として「報告」が実行されたか否かに言及する場合、名詞「報告」の動詞「報告する」との関係はもっとも直接的である。こうした意味は、機能動詞結合(cf. 村木 1991¹⁰)において特に明らかに表れるものである。

以下の(33)-(35)のように、現代語でも同様の表現が見られる例が多いが、(36)(37)など現代語では考えにくい機能動詞の使用も見られる。後者は特に文語の文章に集中する。

¹⁰ 機能動詞とは、「実質的な意味を名詞にあずけて、みずからはもっぱら文法的な機能をはたす動詞」(村木 1991:203)。それらと名詞の組み合わせが、全体として動詞相当に働くもの、たとえば「さそいをかける」(≒さそう)「連絡をとる」(≒連絡する)といったものを機能動詞結合と呼ぶ。

- (33) 米國シカゴ市に於いてパンコストが喉頭癌の放射線治療に關する報告をした中に、パリーのレガート博士が三週間毎日持續してこの治療を始め、その経過の成績良好なることを證明してをるといふことを傳へてゐる。(1925年1号「最近X光線療法の進歩」／宮原立太郎)
- (34) 今や大要を悉して事務報告を終れり、幸にして本會の基礎略定まり、組織愈健全強固なるに當り、……(1909年5号／「海外通信 在米日本人會報告」／牛島謹爾；久万俊泰)
- (35) ……午後一時卅分再開、各地より祝電披露の後、細迫氏より委員會で決定したる議事順序の報告があつて議事に入り、次の如き申合せを爲した。(1925年12号「無産政黨組織準備委員會の主要団体及中心人物—委員會組織の過程及将来—」／新田生)
- (36) 而して三日に至り改革派は本部の名義にて新政黨組織の目的、犬養氏除名の理由を全國黨員に宣言せしに對し、六日非改革派は第二回の報告を發すると同時に、……(1909年5号／「彙報」)
- (37) 石坑鑛穴の穿掘は、其地の歴史に關し甚だ有益の報告を與ふること決して少からず。(1895年11号／「地質学及び地質学者」／佐藤伝蔵)

B. 「報告する」内容・「報告した」内容の記録

名詞「報告」が「聞く」などの直接知覚行為の対象として表れることは、とりもなおさずそれが「報告されるところの内容」の意味に解釈されることと連動する。人の行為である「報告(すること)」を直接「聞く」ことはできないが、「報告(されるところのことがら)」を「聞く」ことは可能ということがその証左である¹¹。

- (38) 其後貴君には久留米の病院にて、御治療中との報告を聞き、奥様へ其報を幾度と無く申上て見ましたが、正氣を失ふ悲しさは、そりや嘘ぢや、偽説ぢやと計にて、益々嘆の積るばかり。(1895年8号「夜の鶴(上)」／福地桜痴)

知覚・認識され、理解された「報告」の内容は、さらに種々の判断行為の対象として処理されることにもなる。

- (39) ◎刑法及刑事訴訟法改正案 曩きに司法大臣より辯護士協會に諮問したる刑法及刑事訴訟法改正案は同協會の調査委員に於て遂に之れを否決したるが總會に於ては該委員の報告を是認すべき傾向ありといふ(1901年10号／「海内彙報」)

ただし、以下の(40)などは、直接知覚した「報告」の内容に関して「點檢する」と解釈していいか疑わしい。どちらかといえば、提出された報告書などを読み、その内容を検討していると考えた方が自然である。

- (40) 斯の困難の場合に、人々互に警戒を爲したるを以て、爲めに良好なる經驗を得たるなり。其證據たる昨年の上半季に於ける、各銀行及び各會社の報告を點檢するに、東京に於ては十五銀行、第一銀行、三井銀行、三菱銀行、第三銀行、安田銀行等、阪に於ては住友銀行、鴻池銀行、山口銀行、三十四銀行等、何れも皆日本銀行に對して借金を有し……(1901年9号／「財政整理と民間の事業界」／小松崎吉雄)

¹¹ こうした問題について、佐藤(2011b)では「行為」と「内容」の双方を「総括する」と主張したが、こうした構文において「内容」だけを「聞く」と考えることはできても「行為」だけを「聞く」と見ることはできない(仮にできるとすると「彼の報告は聞いたが何を言っているか聞き取れなかった」のような発話が許容されることになるが、実際はそうではない)ことから、やはり「内容」の方をより重視すべきであると思われる。

文書化されるなどして記録された「報告」の内容を表すことが明らかな名詞「報告」の例として、以下の(41)などが挙げられる。こうした例は佐藤(2011b)などでは「直接動作に関わらない」として排除されているが、動詞性名詞の周辺的な用法として注目し、そのあり方、広がり方を見ていく価値のあるものであると思われる。

- (41) サトウ氏が蒐集した日本耶蘇會年報は兩三年前京都大學の藏に歸したが、その中に西曆一五九三年三月より翌年同月に至る文祿二三年に亙る一年間の報告を収めた冊子が二部存する。(1917年1号/「西洋画伝来の起源」/新村出)

上の(40)(41)は現代語でも違和感なく受け入れられると思われるが、下の(42)-(44)のように多様な動作の対象として結果物(「報告書」など)としての「報告」が表れることは難しいと考えられる。このように、『太陽』発刊時の日本語では現代語よりも「報告」単体で「結果物」の意味を表す能力が高かったであろうことが示唆される。ただし、こうした現代語で考えにくい例は1895年・1901年に集中しており、1908年以降にはほぼ見られない。

- (42) 今日に當つて、敵國の我に對して此終局を如何すると云ふことに就いては、一旦媾和の使節も派遣致して本月上旬に於て廣島で兩回の面會を致しましてありますが、其意思甚だ曖昧にして未だ眞正の和を求めたるものと認めませぬに依つて、之を拒絶するの止むを得ざるに出たのであります、其大體の顛末は過日外務次官をして本院に其報告を提出致さして置きましたことに於て、明白と存じます、(1895年3号/「海内彙報」)
- (43) 亦之と同時に双方の會社共に自己の車輛にて運搬する時は之に對して其使用料を求めざる可からざる等の事あり依りて暫時の間は諸會社は此精算を爲す爲め、通し切符より生ずる収入は各自記帳して其報告を交換し居れり。(1901年2号/「商業世界」/佐野善作; 祖山鍾三)
- (44) 又交換所は紛失荷物の發見所として、大に便利を與へり。其方法は、紛失又は發見せる荷物の詳細を毎日交換所に報告し、交換所は又各停車場へ其報告を配布す。(1901年2号/「商業世界」/佐野善作; 祖山鍾三)

一方で「報告書」の使用は計80例、その過半数は1895年・1905年の2年分で占めており、「報告」との使い分けについてはさらに詳しく検討する必要がある。

また、(45)(46)など、一部現代語にはあまりない語構成(〇〇デVNスル)も認められた。

- (45) 此語は余が大正五年四月二十三日但馬國の青谿書院に池田草庵先生御贈位報告祭に參拜せしとき、其近傍の寺院に於ける草庵先生始め但馬出身の名士の墨蹟展覽會場に於て看たる所なり。(1917年10号/「我國の徳育と孔子教」/高瀬武治郎)
- (46) (※(19)と一部共通) モリソンの文庫の内容は精しく知らぬが、殆んど其の生涯の所得を傾注して蒐集したもので、支那を中心として印度、印度諸島、費島、朝鮮、日本等に關する各國の典籍備はらざるなく、殊に今日にては容易に獲得し難き東洋諸學會の數十年間の報告雜誌全部を網羅し、……(1917年10号/「案頭三尺」/内田魯庵)

なお、上述したA・Bの分類とは観点が異なるが、以下の(47)のように「報告」の意味合いが現代語と異なる(この場合、「勸告」に近いであろう)例も見られた。

- (47) 又當季中銀行の請求に應じ規則第六十二條に依り過怠金を徴して取引停止の報告を取消したるもの五十六名當季中取引停止解除の請求に依り組合銀行の會議に付したるもの二十四名にして投票の結果に依り解除したるもの十五名否決したるもの九名(1901年9号/「海内彙報」)

4. おわりに

以上、本発表では『太陽コーパス』のデータを利用し、近代語（成立期現代語）における名詞「報告」の統語論的特徴（3. 2.）・語構成論的特徴（3. 3.）・意味論的特徴（3. 4.）を考察した。本発表で明らかになった、『太陽コーパス』における動詞性名詞「報告」の、現代語と特に大きく異なると考えられる特徴は以下に示すとおりである。

①連体修飾に関して

- 「X よりの報告」(3)、「Z する報告」(11)など、現代語には見られない連体修飾の構造が認められる。
- 「Y への報告」の例が極端に少ない。

②複合・派生・臨時一語形成に関して

- 行為主体を前項とする複合・臨時一語形成の生産性が低い（特に固有名の場合）。
- 名詞「御報告」・動詞「御報告する」のいずれもきわめて少ない。

③意味の多側面性に関して

- 「報告」だけで「報告書」などの結果名詞と同様の意味を表す能力が高い（(42)-(44)）。

これらはいずれも現代語との異同、あるいは現代語に至る変遷といったことを考える上で重要な手がかりになると考えられるが、「現代語と異なる」部分の指摘は発表者の内省によるところが大きく、必ずしもデータに基づいた客観的な考察にはなり得ていない。

同様にコーパスを用いた考察ということ考えた場合、「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」では「報告」の検索結果が 15000 件超と膨大になり、動詞と名詞の厳密な振り分けも含め¹²、本発表で行ったように綿密な分類・分析を行うのは難しい。たとえば 3. 2. で実例数の少なさを指摘した「Y への報告」などは、直感的に現代語の方が広く用いられると考えられるが、傾向の差を比較する術は今後さらに検討する必要がある。

このように、総体として現代語の名詞「報告」の使用実態が十分的確に把握できているわけではないこともあり、現時点では当時の「報告」について目立った特徴を列挙するにとどまった。現代語との厳密な比較検討は今後の課題とし、その手法を模索していきたい。

文 献

- 石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』 ひつじ書房。
佐藤 佑（2011a）『「太陽コーパス」の入門とケーススタディ』 東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
———（2011b）「現代日本語の事態描写に関わる動詞性名詞と名詞化節の諸相」 東京外国語大学大学院 地域文化研究科 地域文化専攻 博士論文（未公刊）。
西尾寅弥（1961）「動詞連用形の名詞化に関する一考察」 『国語学』 43（pp.60-81）
村木新次郎（1991）『日本語動詞の諸相』 ひつじ書房。

関連 URL

- 佐藤（2011a） Web 公開版
http://cbllle.tufs.ac.jp/assets/files/publications/handbooks_06/index.pdf

¹² たとえば「彼にこのプロジェクトは難しい局面があると報告はしたが理解してもらえたかはわからない」（動詞）と「帰省して両親に結婚の報告はしてきたが、あまりいい顔をされなかった」（名詞）の相違は、前後要素の形態素情報などによって機械的に峻別することが困難である。